

受験番号

広島市立看護専門学校 第一看護学科

令和八年度 推薦入学試験問題 「国語」

【試験上の注意答えはすべて解答用紙に記入すること】

一 次の文章を読んであとの問いに答えよ。

我々は普段、歩いたり、走ったり、電車に乗ったり、遅刻をしたり、謝ったりして生活している。つまり、いつも何かをする動物——行為する動物——である。

A、たとえば地球が太陽の周りを回ること
は「行為」とは呼ばれない。落ち葉が風に舞うことも、台風が進路を変えることも、原子が核分裂すること
とも、「行為」ではない。また、我々人間であつても、たとえば欠伸^{あくび}やしゃっくりは普通は「出てしまう
もの」(起きてしまうもの、生じてしまうもの)であり、「行為」とは呼ばれない。

世界の中では無数のものが運動しているが、その運動の中には行為であるものとそうでないものがある。では、両者の違いはどこにあるのだろうか。言い換えれば、「行為」という概念をそれとして特徴づけるものは何なのだろうか。こうして、「行為」という概念の意味を明確にしようとする哲学の一分野、すなわち行為の哲学ないしは行為論と呼ばれる分野が立ちあがることになる。

現代の行為論(行為の哲学)の始まりを告げるのは、二〇世紀を代表する哲学者ルートウィヒ・ヴィトゲンシュタインが提示した次の問いである。

私が手をあげるといふ事実から、私の手があがるという事実を差し引いたとき、後に残るのは何か？

実際に考えてみよう。(1) 手をあげることから手があがることを引いたら何が残るのだろうか。

様々な答えがありうるだろう。とはいえ、基本的に I を形成する答えは、手をあげようという気持ち、手をあげたいという思い、意志、意欲、意図、主体性、自発性、積極性、能動性といったものである。

たとえば、自分の手が他の誰かによって持ちあげられるということはあるだろう。B、膝をハン

マーで叩くとびよこんと足があがるように、電気刺激などの何かの刺激を受けた(a)拍子に手が勝手にあがってしまうこともあるかもしれない。それゆえ、「手があがる」ことそれ自体は行為であるとは限らず、それこそ、落ち葉が風に舞うことや台風が進路を変えることと同様の、単なる運動であるかもしれない。言い換えるなら、「手があがる」というのは確かに世の中に生じたこと——すなわち、出来事(event)——ではあるのだが、行為であるとは限らない(単なる運動かもしれない)、ということである。

これに対して「手をあげる」ことは、そのように我が身に勝手に生じるのではなく、まさに自分の意志で行うことである、というのは、多くの人が思い浮かべる II な答えだと言えるだろう。とすると、「手があがる」という出来事が自分の意志(あるいはそれに類する心の働き)によって引き起こされるこ

とが、「手をあげる」という行為の中身なのだろうか。しかし、そう結論づける前に、明確にしておくべき点がある。それは、いま言った意志 (will) とは実際のところ何なのか、ということである。

ここで意志と呼んでいるものは、「…しよう」という思いであるとか、あるいは、「…したい」という思いであるとか、(b) 漠然と区別されることなく言われる場合が多い。(2) しかし、「…しよう」と「…したい」という二つの心の働きの間には大きな違いがある。

たとえば我々は、「手をあげたい」と思うと同時に、「手をあげたくない」と思うことができる。学校のホームルームで、学級委員に立候補する人が全く出て来ず、気まずい空気が流れているとしよう。生徒の中に本当は学級委員になりたい人がいて、手をあげて立候補したいと思っている。しかし同時に、手をあげることで注目されたり、でしゃばりだと見られたりしたくないとも考えている。このとき、この生徒は矛盾した思いの中で (c) 葛藤しているのである。

もうひとつ例をあげてみよう。ある人がいま、カツ丼も食べたいしカレーも食べたいと思っているとしよう。その人は持病のために厳しいカロリー制限があり、どちらかしか食べることができない。それでも、両方を食べたくて仕方がない。こうしたことは普通にありうるだろう。つまり、我々は **III** の矛盾した「…したい」という思いをもつことができる。

それに対して、「…しよう」という思いの場合には、そうした矛盾した思いをもつことは基本的に不可能である。たとえば私が、「今日のお昼はカツ丼を食べよう」と思っているし、それからカレーも食べようと思っている。どちらかしか食べることはできないんだけどね」と言ったとしよう。これを聞いた人は、私が何を言っているのか意味が分からないだろう。どちらかしか食べられないのにどちらも食べようなんて、一体どういうことなんだ、と。「どちらかしか食べられないだろうけど、どちらも食べよう」だったら理解できる。私はわずかな **IV** に賭けて、カツ丼もカレーも食べようとしているのだろう。しかし、どちらかしか食べられないと私が心から信じている場合には、それでも私が「どちらも食べよう」と思うというのは理解不能である。私は疲れて頭が混乱しているのだろうし、そうでなければ、(d) 冗談を言うおうとしているか、人を (3) 煙に巻いてからかおうとしているのだろう。

それに対して、「どちらかしか食べられないけど、どちらも食べたい」という思いであれば、容易に理解できる。こう言い換えてもいい。「…したい」という思いの場合には本心からでない場合がありうる、ということである。どちらも食べたいのだけれど、本当に食べられるとは信じていない、本当に食べようとは考えていない——そうしたことはありうるのである。ここに、食べたいという思いと、食べようという思いの違いがある。 **e** においてはこのポイントを一言で簡単に表すために、食べようと思っている人は食べることにコミットしている (本当に食べようとしている、専念している、肩入れしている)、あるいは、食べることにに対してコミットメント (commitment) をもっている、という言い方が為される。

C 「…しよう」という心の働きと、「…したい」という心の働きには確かにこうした違いがある。

それゆえ、両者は日常的には「意志」という言葉で **V** にされることが多いものの、「…しよう」という心の働きの方は意図 (intention) と呼び、他方、「…したい」という心の働きの方は欲求 (desire) と呼ぶことによって、両者を (e) 便宜的に区別しておくことにしよう。たとえば、手をあげようという意図をもっている人は、手をあげることにコミットしているのであり、それと矛盾する他の意図 (手をあ

げずにじつとしていようという意図など)をもつことはない。他方、手をあげたいという欲求をもっている人は、必ずしも手をあげることにコミットしているとは限らない。D、恥ずかしいからあげたくないという欲求を同時にもっているといったこともありうるのである。したがって、こうした意図と欲求の特徴づけにおいては、行為の成立に直接深く結びつく心の働きはBの方だと言えるだろう。ただし、ここで一点、非常に重要なポイントを指摘しておきたい。(4)それは、欲求よりも意図の方が行為に深く結びついているからといって、意図すれば必ず行為することになるとは限らない、ということである。当たり前の話だが、カレーを食べようと思うことは、実際にカレーを食べることと同じではない。どれほど固くカレーを食べようと決意していても、食堂で頼む直前にカレーが売り切れになつてしまいかもしれない。また、そうしたVI障害が発生しなくても、頼む直前に気が変わり、結局食べずに済ますかもしれない。言い換えれば、ある意図がある行為を実際に成立させるかどうかは、まさにその行為が成立しない限りは分からない、ということである。行為とは実際に為されたものであり、為されるまでは行為は存在しないのである。

(古田徹也『それは私がしたことなのか 行為の哲学入門』新曜社・二〇一三年、作題のために改変した箇所がある)

問一 空欄A Dを補うのに最も適当な語を、次の(ア)～(オ)の中からそれぞれ一つ選んで符号で書け。

(ア) すなわち (イ) ともあれ (ウ) あるいは (エ) また (オ) しかし

問二 空欄I VIへ入れるのに最も適当な語を、次の(ア)～(エ)の中からそれぞれ一つ選んで符号で書け。

空欄 I	(ア) 中立派	(イ) 多数派	(ウ) 慎重派	(エ) 理想派
空欄 II	(ア) 標準的	(イ) 平均的	(ウ) 必然的	(エ) 変則的
空欄 III	(ア) 単独	(イ) 一定	(ウ) 複数	(エ) 唯一
空欄 IV	(ア) 精神性	(イ) 直接性	(ウ) 必然性	(エ) 可能性
空欄 V	(ア) 離れ離れ	(イ) 別々	(ウ) 一緒くた	(エ) ひとところ
空欄 VI	(ア) 偶発的な	(イ) 外在的な	(ウ) 抽象的な	(エ) 内向的な

問三 波線部(a)～(e)の読みを記せ。

問四 傍線部(1)「手をあげることから手があがることを引いたら何が残るのだろうか」とあるが、筆者が想定する「手をあげること」と「手があがること」の違いを簡潔に説明せよ。

問五 傍線部(2)「しかし、「…しよう」と「…したい」という二つの心の働きの間には大きな違いがある」とあるが、それはどのような違いだというのか。本文中の言葉を使って説明せよ。

問六 傍線部(3)「煙に巻いて」の意味を、端的に説明せよ。

問八 傍線部(4)「それは、欲求よりも意図の方が行為に深く結びついているからといって、意図すれば必ず行なうことになるとは限らない、ということである」とあるが、なぜ「限らない」のかを明らかにしながら説明せよ。

二

次の文章にある傍線部のカタカナ表記を、漢字に直せ。

……そうして、本文の①シツピツも七割近くが済んだ頃。例の発表があった。

とあるウェブ小説のコンテストに応募した円の小説が大賞を受賞したニュースである。

小さな賞だった。賞金もない。しかし商業誌への②ケイサイが確約されている賞であった。これであいつの物語は、紙の本となり、電子版となり、多くの人間に読まれていくことだろう。それがまず、何よりも喜ばしかった。

主人公は漫画家を目指す少女だ。彼女の友人や家族、周囲の人間達その他、彼女が大切にしている飼猫など複数の③シテンを通じて、精神的に少女が成長していく物語である。その作中に、少女の町にある純④キッサの女店主が登場するのだが、その店主のあだ名が「魔女」となっている辺り、完全に北星を意識して書いている。加えて、物語に出てくる猫達は言葉を話し、少女を見守るという設定まで出てくる。これには苦笑せざるを得なかったが、とても楽しかった。誰もこれを、現実を基にした物語だとは思っていない。それがとても⑤コツケイで、小気味よい。

(出典…小川洋子『博士の愛した数式』新潮社・二〇〇三年)